

平成27年度 第1回 大衡村総合教育会議 議事録

日時：平成27年10月23日（金）

午後2時から

場所：大衡村役場 3階 第3委員会室

○出席者：大衡村長 萩原達雄，教育長 庄子明宏，教育長職務代行者 高橋健正
教育委員 渡邊勇，教育委員 齋藤さと子，
総務課長 早坂勝伸，教育学習課長 佐野克彦，
総務課主幹 堀籠緋沙子（書記）

○欠席者：教育委員 鎌田澄子

1. 開会（進行：総務課長 早坂勝伸）

開会時刻：午後2時

2. 挨拶（大衡村長 萩原達雄）

〔省略〕

3. 協議…大衡村総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により村長が議長となり進行する。

（1）総合教育会議の設置について・・・資料1

<萩原村長>事務局から説明をお願いします。

<佐野課長>平成27年5月28日公布されている。教育委員の皆様には5月定例会にて説明済み。

大衡村総合教育会議設置要綱（資料1）を読み上げる。

<萩原村長>説明について質問・不明な点はありますか。

<全員>なし。

（2）教育振興に関する施策の大綱（案）について・・・資料2

<萩原村長>事務局から説明をお願いします。

<佐野課長>設置要綱第2条（所掌事務）（1）施策の大綱の策定に関する協議ということで、総合教育会議で協議しなければならないことになっている。

資料2をもとに説明する。

1 ページ目は表紙です。

2 ページ目は総合教育会議において、首長と教育委員会が協議調整し、大綱を首長が策定するもの。

実際の大綱（案）の前には、大衡村第5次総合計画があり、最上位の計画になる。大綱はある程度、教育に関する部分を抜粋して策定している。

「まちづくりの将来像

ともに育み 共に創り 共に生きる

愛と活力にあふれたまちづくり」が基本理念となっている。

教育振興に関する施策の大綱（案）の内容（資料2）を読み上げる。

基本施策Ⅰ「学校教育の充実」の⑥と⑦は総合計画に掲げて無いもので、追加している。

⑥は東日本大震災以降、災害時身を守るための技術を教えるもので、災害に適切に対応するための生きる力を育むもの。関連教科・総合学習・特別活動等で、防災教育を推進していく。

⑦はICT（インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー）教育・・・情報通信技術を活用した学校教育。インターネットの環境下でタブレット端末や電子黒板等を活用して教育の効果と質の向上を目指すもの。

⑥と⑦は新たに付け加えたものとしてご理解いただきたい。

細かい項目については、総合計画の実施計画をもとに具体的な施策を実施していくもの。あくまでも大衡村の教育の大綱ということで理解していただきたい。

<萩原村長>このことについて意見はありますか。

<佐野課長>大綱は本日策定ではなく、委員の皆様にも初めて見て頂くので追加した方がよい部分等ありましたら意見を頂きたい。策定は第2回の会議で行います。

<萩原村長>大綱の概要は皆さんご存知だと思うので、今日は結論を出すのではなく、このような内容で行くということをご了承いただいたものとします。

(3) その他（意見交換）

<渡邊委員>教職員の人事については、いかが進めるか。教職員の情報を集めてほしい。
体調不良により休まれた場合、子どもたちに影響が及ぶ。できればその辺を調整してほしい。

<萩原村長>教職員の良し悪しの判断は難しいので、教育長が手腕を発揮して調整してほしい。

<庄子教育長>今回の総合教育会議で大切なところは、教育と行政が共同しながら進めていくということで、行政が教育に介入するという事ではない。
人事関係は教育事務所と教育委員会で調整するものです。決定するまでの期間も短いですが、それまでに調整したい。

<萩原村長>教育委員会は政治的に中立。渡邊委員の思いは分かるが、その辺は教育長が手腕を発揮して調整してほしい。

<庄子教育長>わかりました。

<萩原村長>ICT教育の充実ということですが、なかなか精通している先生がいないのではないか。

<庄子教育長>現状は、小学校では各教室にモニターのテレビが1台ずつ設置してある。
以前に、国でデジタル黒板を導入するときに、大衡では小学校も中学校も必要ないとして要望しなかった。
デジタル黒板とはモニターと違って、画面が大きく黒板に近い。
小学校はデジタル教科書を導入している。中学校は導入していない。小学校ではデジタル教科書を使ってモニターに映している状態。デジタル黒板を使うとモニターに実際に書ける。
教育の効率化が図れるものを当時買わなかったのは残念である。
先生方に、今年8月に実際にタブレットを使った模擬授業を業者にしてもらった。先生方から要望があった場合には今後考えようと思っている。
先生方の意見は80%が賛成で、もう一度今年検証して、その中でICT教育というものの充実をはかり、方向性を決めたいと思う。
東日本大震災以降、防災教育については東北6県真剣に取り組んでいる。

災害時には自分は何ができるかというのは、生きる力と密接な関係にある。文科省からの要望で教育会議に防災教育の充実を盛り込んでほしいという通達があった。

現実的にはアンケートの結果、計画的な取り組みをしていかなければならないと考えている。まずは中学校へのデジタル教科書と電子黒板の導入を考えている。

<高橋委員>前回の模擬授業は機械を売るためだけのものであった。

<萩原村長>議会でもタブレット端末を使ったIT授業をしてみてはどうかという意見があった。富谷の東向陽台小学校の先生をよんで説明を聞いた。その先生いわく、教える先生があまりいないことがネックであるそうだ。

<高橋委員>現場の先生が全員一致でやらなければ、うまくいかない。

<萩原村長>大衡村も精力的にPC教育をしていた時期があったが、今はどうなっているか。

<庄子教育長>教科性の強いものもあるので全員が使っているわけではない。調べもの学習・使い方の学習・ネット上の学習等、全体で20～30%活用している。自由に使うのではなく、教員が必ずついて使わせている。

<萩原村長>大衡村は先進的だったのではないか。

<総務課長>県内でも早い方で、コンピューター教室を整備した。

<庄子教育長>昨年パソコンを更新した。中学校へ見に行ったところ、地震後壊れていたり故障の表示があったため更新を行った。

<萩原村長>ちょっと前、能力別学級というものがあつたと思うが。(少人数学級)

<庄子教育長>今もしています。別な形で展開しています。

<高橋委員>大衡にはいろいろな子育てのサービスがあるので、来たい人が多いと聞いている。

<萩原村長>誰でも暖かく迎えて良い教育を受けさせたいということが、我々の願いである。

<萩原村長>他市町において、中学校のいじめの件があったが大衡はどうか。

<庄子教育長>小学校でも中学校でもあります。

<萩原村長>社会問題になるようなことはないか。

<庄子教育長>総合教育会議設置要綱第2条(3)は、いじめのことをさしているもので、早期発見と予防が大切なのだが、どうしても隠してしまうので問題が大きくなってしまふ。いじめの恐れがあると感じた時点で、審査会や代表者会議にかければ良い。先生によっても違うが、小さいことでも教頭に話すようにしてあるはずである。しかし学級担任が抱え込んでいる場合がある。「報連相」が出来ていない。地域には子どもを叱る人がいなくなっている。

<萩原村長>齋藤委員は小中高の子どもを持つ親として、何かありますか。

<齋藤委員>子育てしながら、親も育っていかなければならない。我慢できないことが多い。恵まれているのが当たり前で、大衡は特に恵まれている。

<萩原村長>こども園の理事長は親をこども園に入れて教育しなければならないと言っている。ほとんどはきちんとしているが、していない母親は教育が必要である。こども園のやり方として、小さいころからいろいろな経験をさせるのはダメという人もいるが、心配するほどではなかった。

<庄子教育長>私立幼稚園の運営には口は出せないが、他の園と違うというアピールポイントが必要なのだと思う。しかし、小学校の先生に言わせると、年齢に合った指導が大切であると話す。中学校の段階では自己顕示力が強くなり、いじめを自分で何とかしようとし、口に出すことを恥ずかしがる。皆さんいろいろなことを言うが、中学校も3年生になると人間的に素晴らしく成長する。

<萩原村長>社会教育では、先日のふるさと祭りの公民館の作品は、いろいろな人が色々な事をしていて、大衡も捨てたものではないと思う。

今日の会議は第1回目なので、この辺でしめさせていただきます。

4. 閉会

閉会時刻：午後3時3分

本議事録は事務局書記が記載したものであるが、その内容に相違ないことを証明するためここに署名する。

平成27年10月23日

大衡村総合教育会議出席者

大衡村長	萩原 達雄
教育長	庄子 明宏
教育長職務代行者	吉橋 健正
教育委員	渡邊 勇
教育委員	齋藤 さと子